



主要目	
建造所	三菱重工下関造船所
進水年月	1960.12.30
航行区域	沿海区域
総トン数	359.20トン
長さ	44.13m
幅	7.6m
主機関出力	950PS
速力(最大)	13.3ノット

を実施し、昭和58年9月、時代を担う最新鋭敷設船「光洋丸」に業務を引継ぎ廃船となりました。

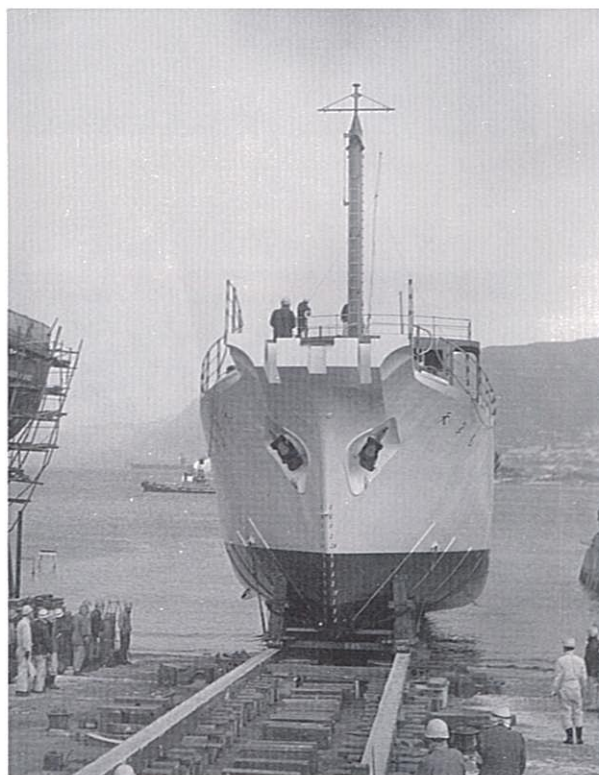
昭和22年以来、長崎を定係港として、九州周辺の工事に従事していた勢運丸(昭和13年建造)もすでに船齢20年を超え、工事能力も著しく低下したため、勢運丸に変わる敷設船として「天草丸」が建造されました。

本船は、昭和35年6月23日、総工費1億1,921万1,000円をもって、下関造船所で起工、翌36年2月17日、竣工しました。

本船は、行動海域を九州周辺に限ることなく、北海道まで拡げ、このため、耐航性、安全性、凌波性等に格別の考慮を払った船型となっていました。

また、推進装置は、可変ピッチプロペラを採用、ケーブルエンジンは油圧駆動、その他、電動油圧式操舵機、無線設備等を備えた、小型船ながら重装備の敷設船として就航しました。

昭和36年5月の福江～久島間修理工事を初工事とし、砂原～室蘭間中継器付海底同軸ケーブル工事(津軽丸をサポート)、知念～久高島間の建設工事等、南は沖縄から、北は北海道まで数多くの工事



▲天草丸進水式



▲船尾方向より、母親のぬくもり
が感じられる。



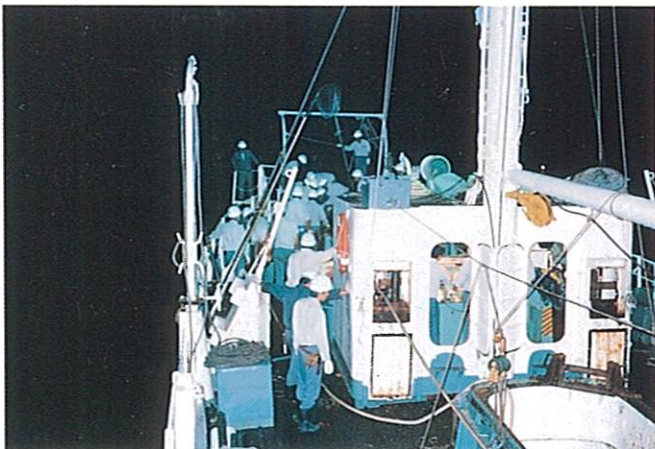
▲船首方向より、300トンと小型ながら落つきのある風格がある。



◀ケーブル線端に付けたブイを収容する作業艇。



▲故障ケーブル巻揚げ。



▲故障復旧作業。
島の通信確保のため、深夜にまで及ぶ復旧作業。